

誘いの商店街

一松永駅北口における地域資源を活かした拠点形成一



計画敷地

計画敷地は、**JR 松永駅北口**とする。JR 松永駅は福山大学の最寄り駅であり、計画敷地周辺には福山大学のスクールバスターミナル発着点が設けられており、福山大学の学生をはじめとする多くの学生が日常的に利用する通学動線上にあたるが、地域と学生との接点は希薄である。

地域住民を主体とした北口商店街での夜店やハロウィンイベント・アーケード撤去などの取組が生まれ、まちづくりの機運が高まっている。2024 年には松永駅周辺の賑わいビジョンが作成された¹⁾。地域再生と商店街の再構築の可能性を探る必要性から本計画に至った。



提案

計画概要

商店街の 38 軒を対象として、**居住者の生活の場を損なうことなく、既存の建物を最大限残した計画**とする。一方で、商店街の建物は耐久性の観点からも将来的には建て替えが必要となる。JR 松永駅から商店街に不足する機能を付加し、通過点と化した商店街に価値を与える。共用スペースを整備することで、住民と来訪者の双方が利用しやすい商店街へ転換する。

計画の一環として、JR 松永駅から商店街の一部にペDESTリアンデッキを整備し、人々の流れを創出する場を形成する。計画地は無電柱化を行い、今後建築される建物については、このデッキと整合性のとれた計画とすることを前提とする。

計画方針・展望

1 ー共用スペースの改善ー 計画地と周辺の利便性・快適性の向上

[現状・課題] 駅前混雑、駅前駐車場跡、駅前路線バス停留所跡、共用スペース（トイレ・駐車場・駐輪場・広場）の不足（イベント環境が十分でない）、既存溢れ出し、道路・歩道の段差、駅機能（待合）の不足

2 ーキャンパス化ー 子供から学生が成功体験を得られる場所

[現状・課題] 福山大学を初めとする学生と地域の接点が希薄 → 地域と大学の交流促進

3 ー一帯在拠点の形成ー 人々が憩う場所

[現状・課題] 広場がない、飲食店などの店舗以外に集う場所がない、商店街空きスペースの活用

計画詳細

- ペDESTリアンデッキの設置
- 駅前整備（駅前交通整理と歩車分離）
- 拠点形成（リノベーション拠点・新築拠点）
- 福山大学スクールバスターミナル移転
- 公共スペース（トイレ・駐車場・駐輪場・広場）整備
- 道路・歩道同レベル化
- 駅機能整備（待合室の拡充）
- 経営体験（拠点 a・2・拠点 b）、ワークショップ（広場）
- 空きスペースの活用（ゴミ回収ボックスの設置・住民専用駐輪場の整備）



敷地調査

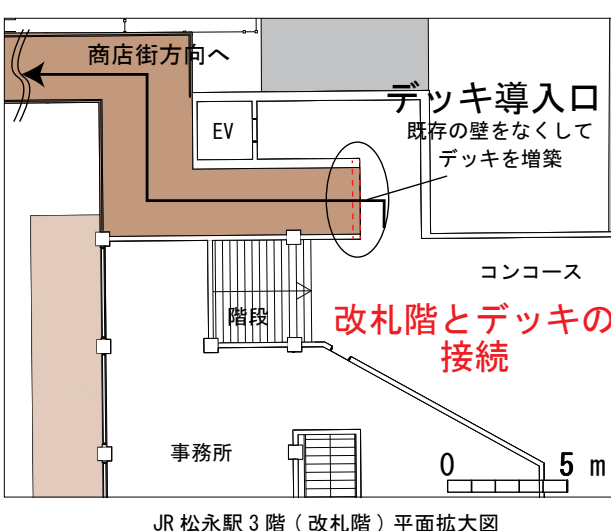


ペDESTリアンデッキ

配置・断面計画

1 JR 松永駅 3 階（改札階）とデッキ接続

JR 松永駅 3 階（改札階）から商店街方面へ直結する**ペDESTリアンデッキ**を整備する。駅利用者の動線整理により、駅前交通の整理と歩車分離を促し、**駅前混雑の緩和**を目指す。



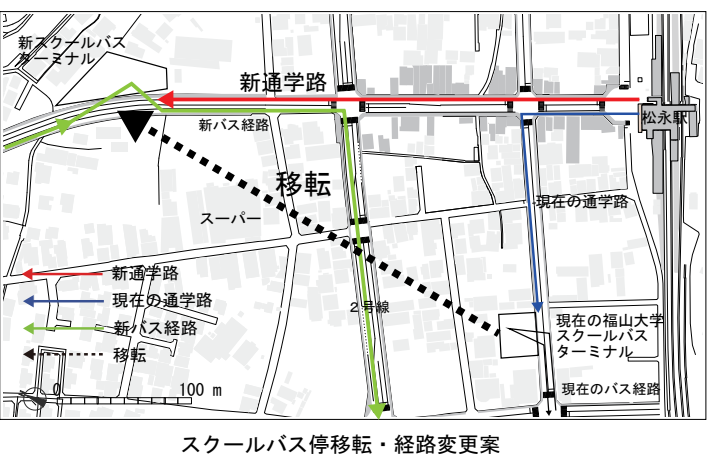
■ 外観



イベント時の出店も可能とし、回遊性のある場を創出。デッキの設置により、駅利用者の動線を整理し、人々の滞留の場へ。

2 バスターミナルの移転＋バス経路変更

JR 松永駅前福山大学スクールバスターミナルを国道 2 号線北側の敷地に**移転**する。松永府中線までは、右回りの**循環路線**とする。福山大学の学生をはじめとして、**商店街を通学路**とすることで商店街との接点を持たせる。



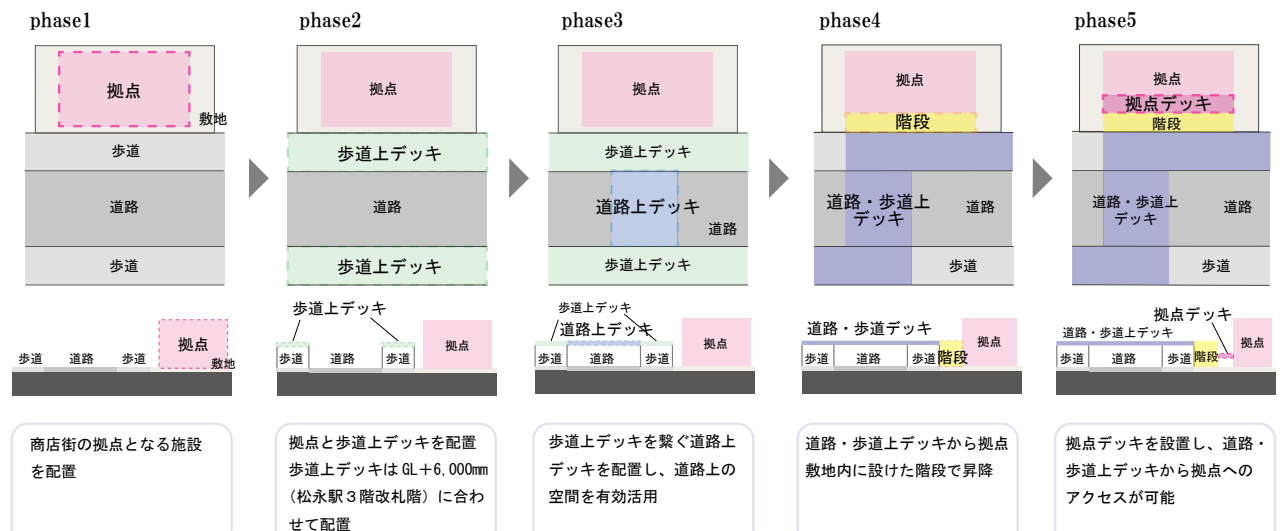
■ 歩道



歩道上幅は約 3,000mm である。夜店などのイベント時には歩道上で出店を行っている。

3 回遊型歩行者動線の形成

商店街の各拠点を繋ぎ、アクセスを可能にする**回遊型歩行者動線**をペDESTリアンデッキの設置により、形成する。拠点は低層（2 階建て）とし、拠点デッキと道路・歩道上デッキの高さに変化を与え、**拠点敷地内の階段**で昇降をする。



配置・断面ダイアグラム

■ 飲食・休憩スペース（出店スペース）



デッキは通路としての役割だけでなく、机や椅子を常設し、**日常時利用からイベント時利用**を考慮している。イベント開催時には一部を**出店スペース**としても利用できる。

■ デッキの手すり壁・防護壁



人が住んでいる建物の前高さ 2,000mm の防護壁を設置し、住民の生活行動が目立たないようにする。その他高さ 1,100mm の手すり壁を設置

リノベーション拠点 a-2（経営体験の場）

建物の貸店舗部分をリノベーションする。JR 松永駅北口は南口と比較して、飲食店や宿泊施設が少ないため、1階を飲食店、2階をゲストルームとする。福山大学の学生をはじめとする学生がまちの経営者に起業のための実務指導をしてもらいながら働く。

■建物概要（現状）

- ・ 木造 / 鉄骨コンクリートとブロック造2階建て
- ・ 店舗併用住宅
- ・ 昭和 35 年～（店舗）、昭和 47 年～（倉庫・居）
- ・ 切妻屋根
- ・ 一部貸店舗募集

■ ゲストルームいこい



■ 居酒屋いこい



新築拠点 a-1 地域に開放したキャンパス「学び機能」

ー福山大学の学生の学習成果共有ー

地域開放研究展示スペース

大学生の研究などを展示する。授業の一環として、学生や教員をはじめとして、地域の人などに向けて発表し、好評を行う。

■ 研究展示スペース



ー学習環境の整備ー

地域開放学びスペース

福山大学の学生に限らず、誰もが利用できる地域に解放した学習スペース。

■ コワーキングスペース

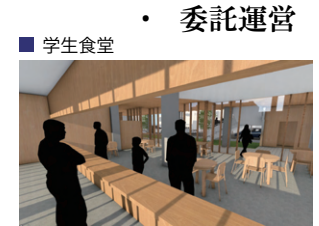


新築拠点 b（経営体験の場）地域に開放したキャンパス「待合機能」

ーキャンパス化 × 商業機能ー

1. 福山大学の学食提供

大学 × まちの事業者



2. ポップアップ店舗

学生 × まちの事業者

- ・ 学生と事業者の共同運営
- ・ 福山大学学生の単位取得のしこみ
- ・ 1 ～ 3 か月で店舗の入れ替え
- ・ 拠点運営費創出

3. ワークショップスタジオ

学生 × 子供

- ・ 学生主体運営
- ・ プログラム型ものづくりワークショップ

ーイベント開催場所としての設備整備ー

+待合・休憩機能

イベント開催時の利用を考慮し、トイレと待合室を近接して配置した。イベント時にはイベントスペースとして貸し出す。日常時には、バスや電車の待ち時間を快適に過ごせる空間として利用できる。

■ 待合室



待合室・トイレの整備

新築拠点c「交流機能」

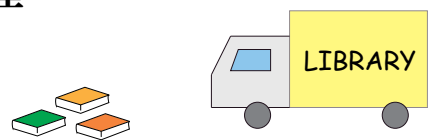
ー交流拠点となる広場整備ー

管理組織を結成し、広場の管理・イベント企画を行う。活動団体や自治体（福山市）などがイベント目的での利用する際は広場を貸出す。利用料（出展料など）は広場の管理費等に充てる。

■ 具体的な取り組み

1. 日常イベントの開催

- ・ 本の読み聞かせ・貸出
- ・ マルシェ



2. 野菜の栽培・収穫・販売ワークショップ

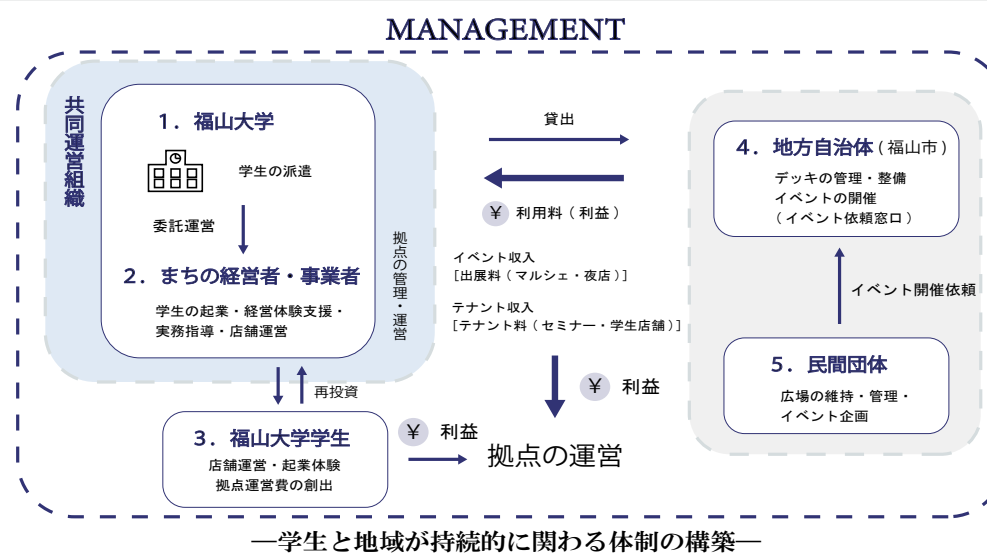
広場の一部に小規模な畑を設け、地域の幼児から小学生までの子供を対象に野菜の栽培・収穫・販売を一環として体験できるワークショップを行う。



拠点施設概要

拠点施設は新築 3 棟（拠点 a-1、拠点 b、拠点 c）とリノベーション 1 棟（拠点 a-2）の 4 箇所である。新築拠点（拠点 a-1・拠点 a-2、拠点 b、拠点 c）はそれぞれ「学び」「待合」「交流」の機能を持たせる。

施設の運営方法としては、拠点 a-1・拠点 b、拠点 a-2 は福山大学とまちの経営者との共同運営とし、拠点 c は民間組織での管理とする。拠点 a-2 と拠点 b は実践型経営体験の場とし、まちの経営者は学生の起業支援・実務指導を担う。学生は学生店舗の運営を通じて、実践的な経営体験ができる。学生と地域が持続的に関わる体制を構築する。商店街の空きテナントへの入居を促進し、誰もが参加しやすい街を実現する。



商店街歩道、道路・歩道同レベル化

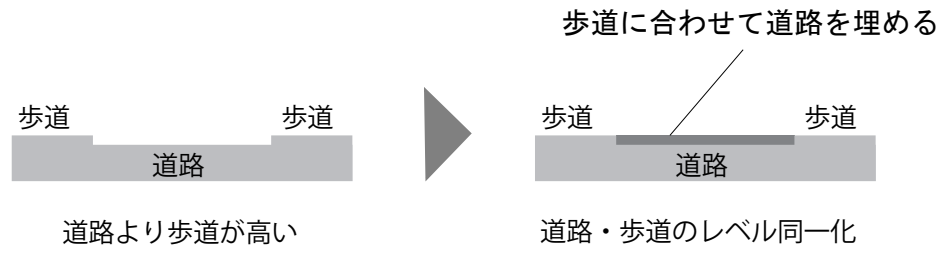
商店街の歩道は商店街の歩道は住民の自転車やバイクが駐車されており、歩道が住民の生活空間の一部として利用されている。商店街では、道路と歩道との間に段差がある。歩道と道路の段差により、高齢者が手押し車や自転車を押して通行する際には移動が困難な様子が見られた。歩道高に合わせて道路を嵩上げすることにより、道路と歩道の同レベル化を図る。段差解消により、利用者の安全性や利便性が期待できる。



駐車された自転車
(2025 年 11 月 30 日)



道路と歩道の段差
(2025 年 11 月 30 日)



駅前整備

現状

市営松永駅北口駐車場は利用者の減少により廃止されたが、駅前ではタクシーや送迎のための自家用車が混雑している。

計画

廃止された路線バス停留所・老朽化した市営松永駅前駐車場（立体駐車場）は撤去する。

効果

駅前混雑の緩和と歩車分離の促進



市営松永駅北口駐車場
(2025 年 10 月 5 日)



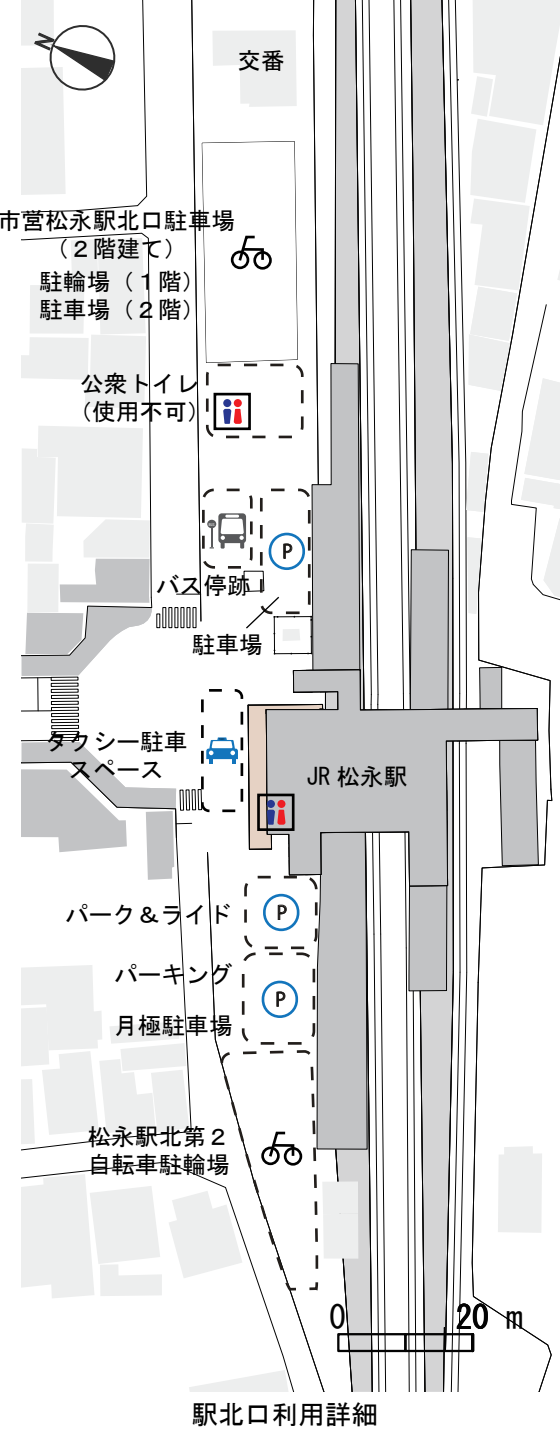
路線バス停留所跡
(2025 年 10 月 5 日)



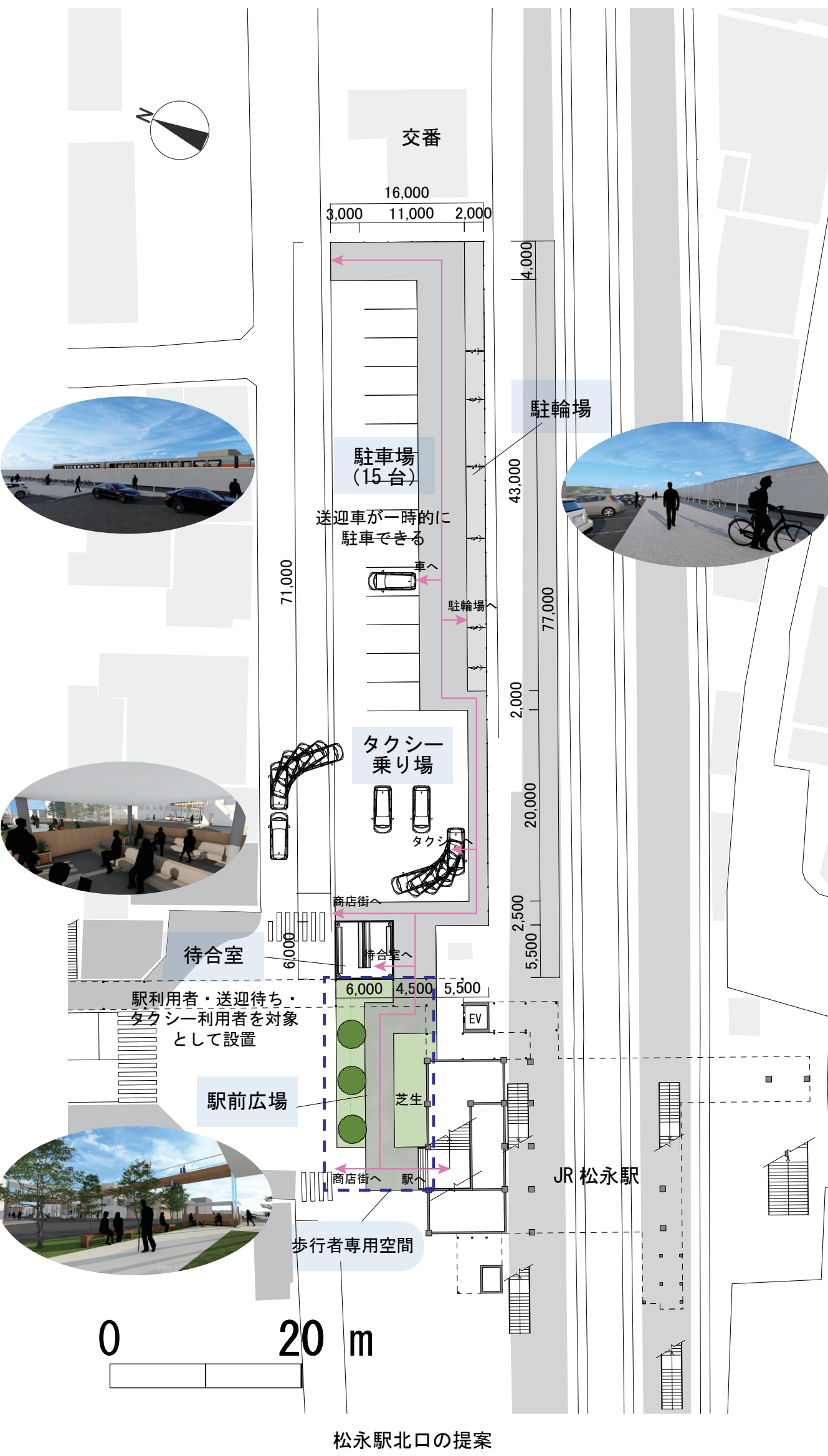
駅前交通状況
(2025 年 11 月 5 日)



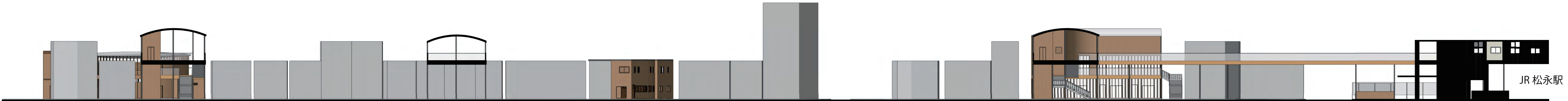
路線バス停留所跡
(2025 年 10 月 5 日)



駅北口利用詳細



松永駅北口の提案



商店街西側立面図 S=1/500